

本道への移住者に対するアンケート調査結果

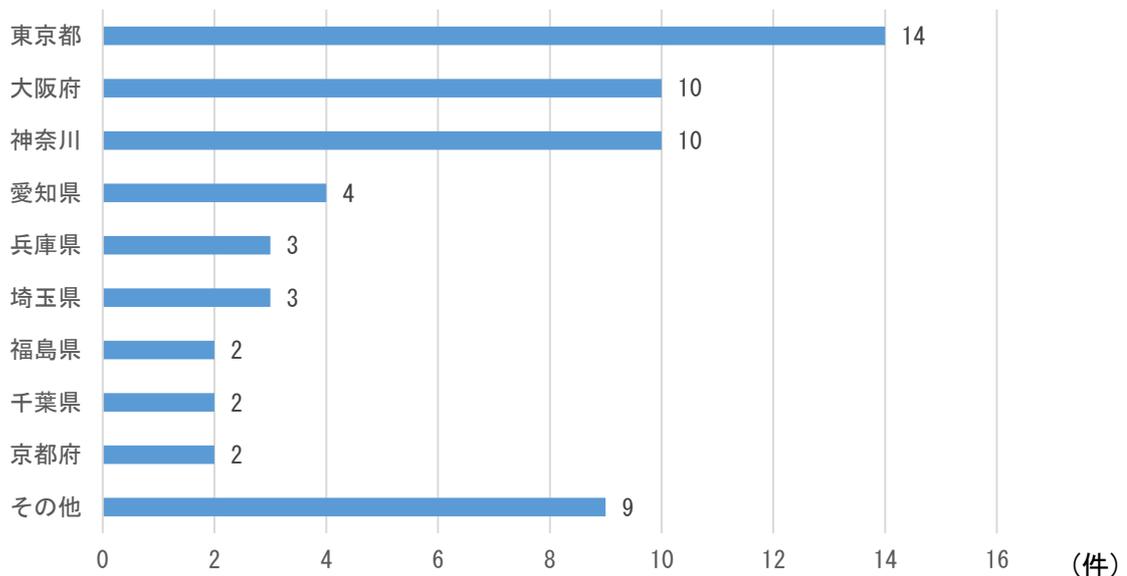
【アンケート調査の概要】

- ① 目的 今後の移住施策を効果的に展開するため、本道に移住された方に対し、移住の動機や情報収集などについて調査を行い、移住の実態や課題などを把握する。
- ② 調査時期 平成29年2月中旬～平成29年3月上旬
- ③ 対象 道内市町村に移住してきた世帯で、世帯の特定に関しては各市町村から協力を得た。（10市町村×各10世帯＝計100世帯）
- ④ サンプル数 61件（市町村を通じて配布し、郵送で回収。回収率61%）
- ⑤ 調査対象市町村 名寄市、富良野市、七飯町、森町、東川町、下川町、大空町、浦河町、上士幌町、鶴居村

【回答者の属性】

1 移住前の居住地

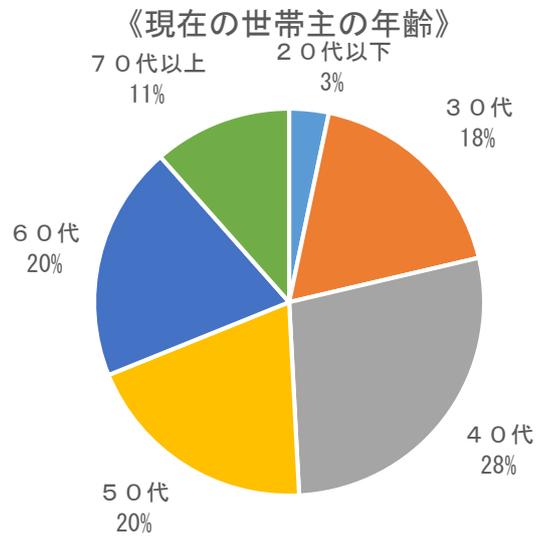
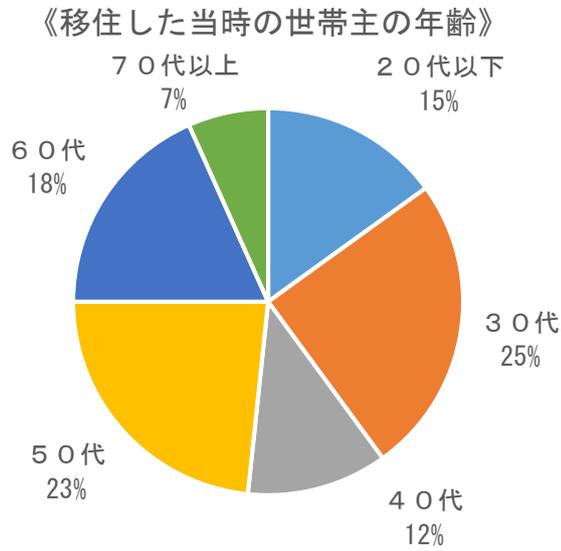
「首都圏」が30件（49.2%）、「近畿圏」15件（24.6%）、中京圏4件（6.6%）と首都圏が過半数を占めている。



※その他：青森県、茨城県、静岡県、徳島県、岡山県、広島県、山口県など

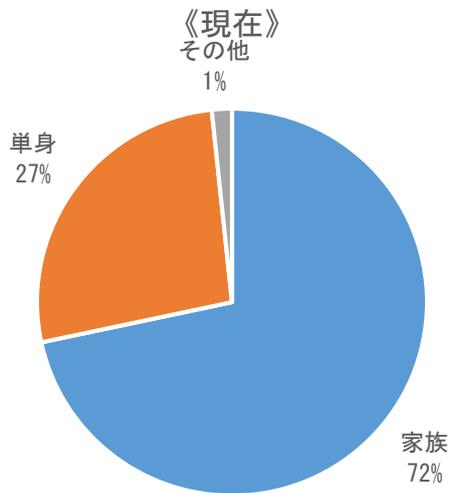
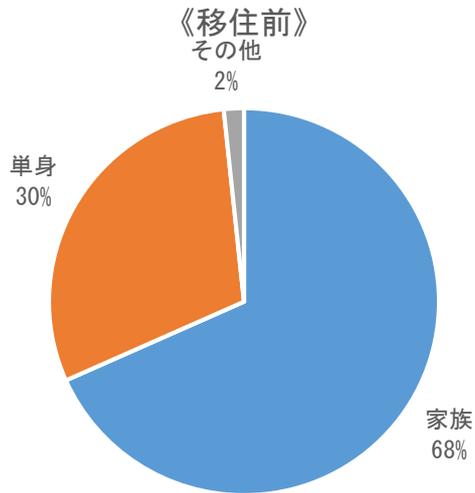
2 移住した当時と現在の世帯主の年齢

「30代」で移住した世代が最も多く（25%）、次に「50代」（23%）であり、20～50代の現役世代で全体の4分の3を占めている。



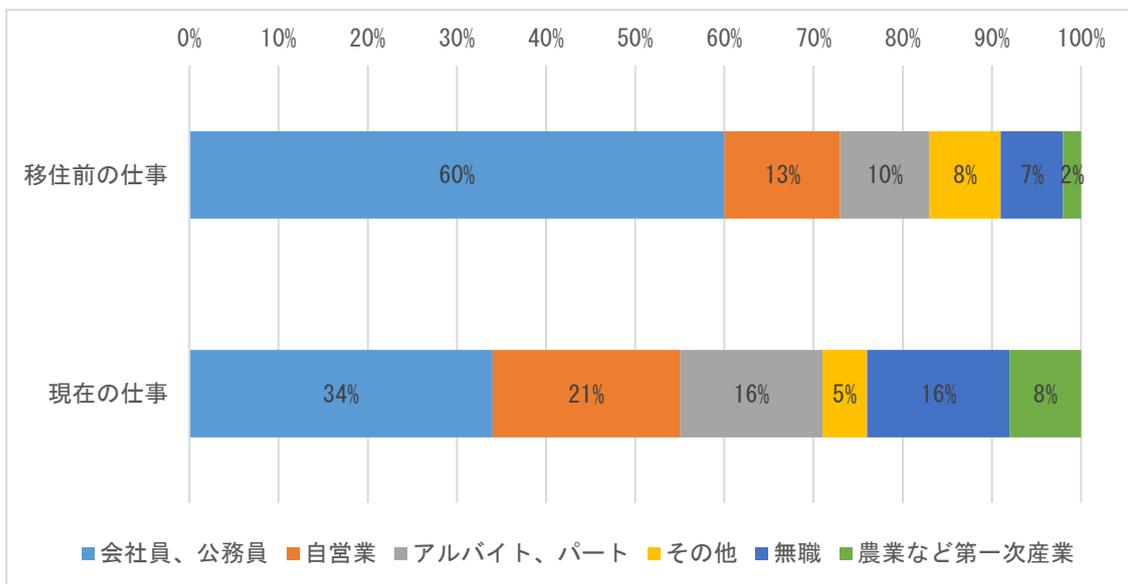
3 移住前と現在の家族構成

移住前と現在の家族構成には大きな変化はなく、「家族」で移住した世帯が約7割を占めている。



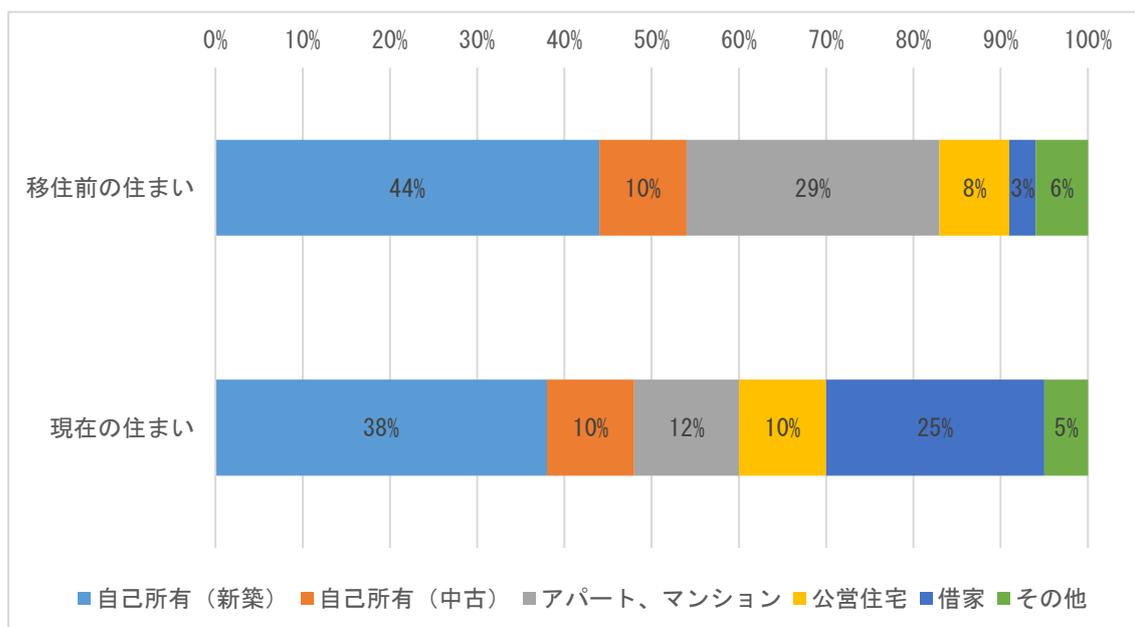
4 移住前と現在の仕事

移住前は、会社員や公務員が6割を占めていたが、移住後は約34%にとどまっている一方、自営業やアルバイトなどが23%から37%に増加し、農業など第一次産業も6%増加している。また、無職となった世帯も9%増加している。



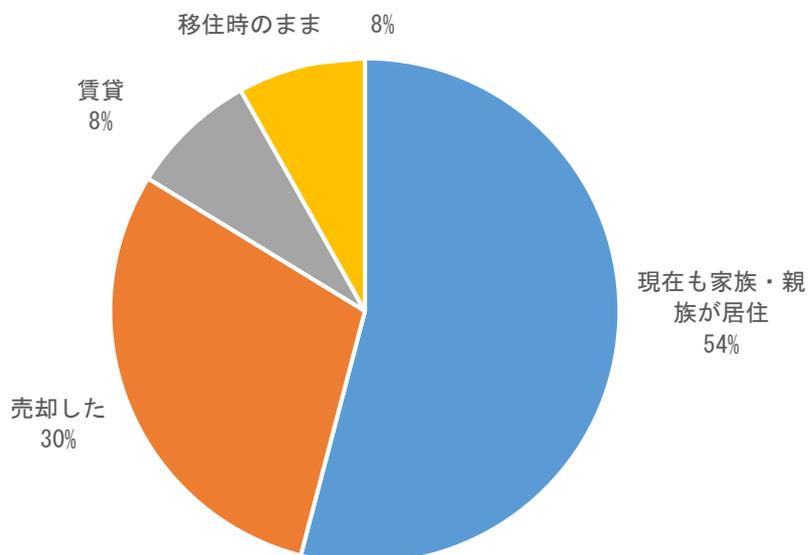
5 移住前と現在の住まい

移住前と現在で比べると、自己所有（新築・中古）はいずれも概ね半数となっているが、アパート・マンションの割合が大幅に減り、代わりに借家が大幅に増えている。



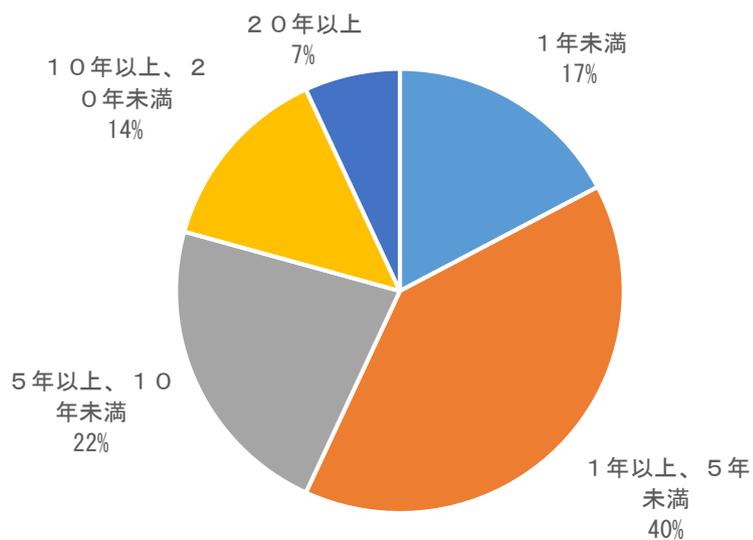
6 移住前の住まいの現在【5の移住前で「自己所有」と回答した方のみ】

「現在も家族・親族が居住」（54%）が最も多く、次いで「売却した」（30%）が多かった。



7 移住後の居住年数

「1年以上5年未満」（40%）が最も多く、次いで「5年以上10年未満」（22%）が多かった。

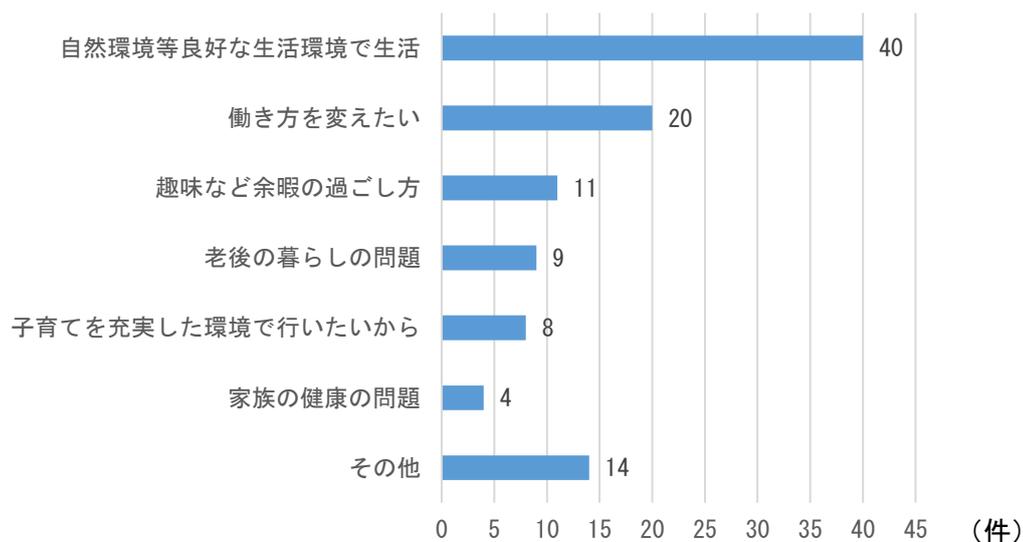


【調査結果】

1 移住の動機及び移住するまでの情報収集の方法

(1) 移住の動機

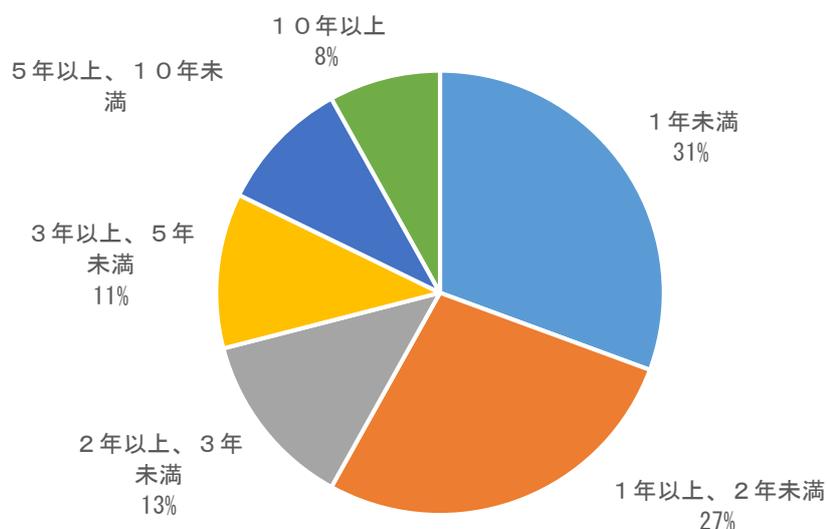
「自然環境等良好な生活環境」(40件)が最も多く、次いで「働き方を変えたい」(20件)、「趣味など余暇の過ごし方」(11件)が多かった。このほか、「老後の暮らしの問題」や「充実した子育て環境」(ともに8件)も多かった。 ※複数回答 (N=110)



※その他：農家に嫁いだ、親との同居、田舎でのチャレンジなど

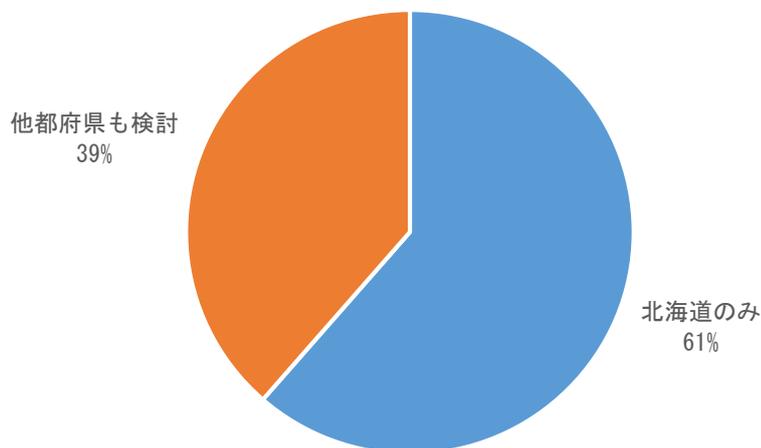
(2) 移住を決めるまでの期間

「1年未満」(31%)が最も多く、次いで「1年以上2年未満」(27%)「2年以上3年未満」(13%)が多く、約7割の方が3年未満の期間で移住を決断している。



(3) 北海道以外の移住候補地

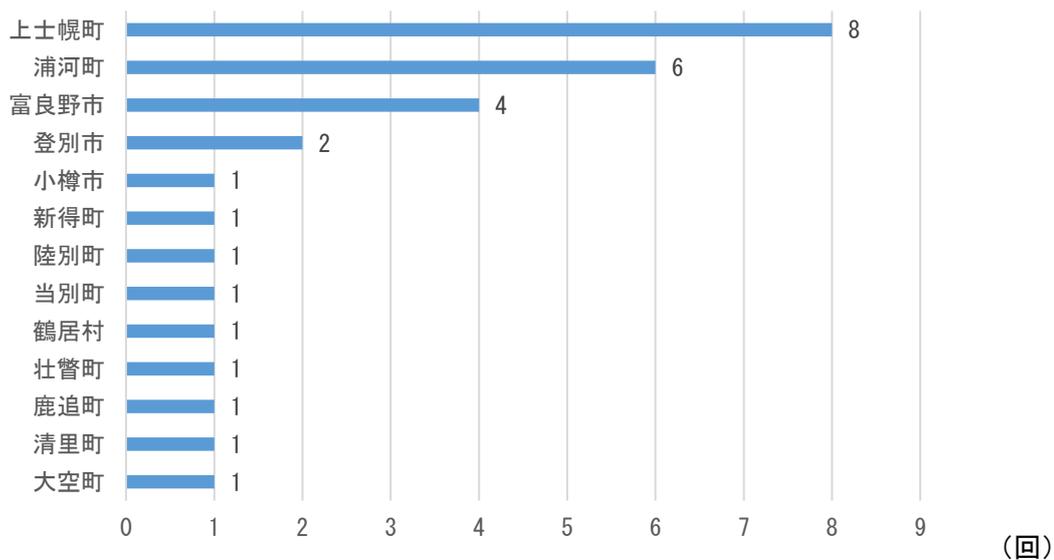
「北海道のみ」方が61%を占め、北海道の人気の高さがうかがえる。また、北海道以外の移住候補地は「沖縄県」(9件)「長野県」(6件)が多かった。



(4) 体験移住「ちょっと暮らし」の利用回数(複数回答)

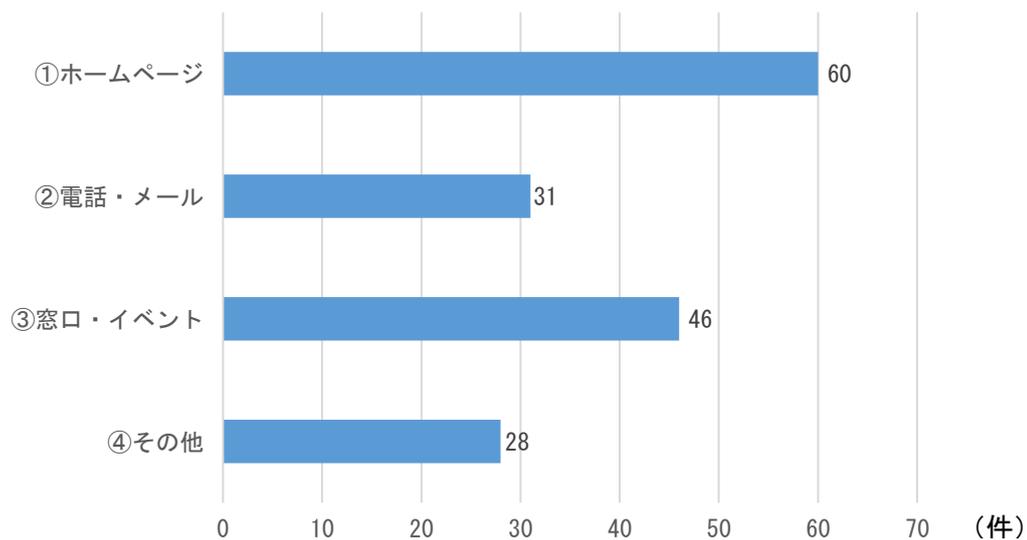
体験移住「ちょっと暮らし」利用の多い市町村は上士幌町(8回)、次いで浦河町(6回)、富良野市(4回)が多かった。

※複数回答(N=29)



(5) 情報の入手方法

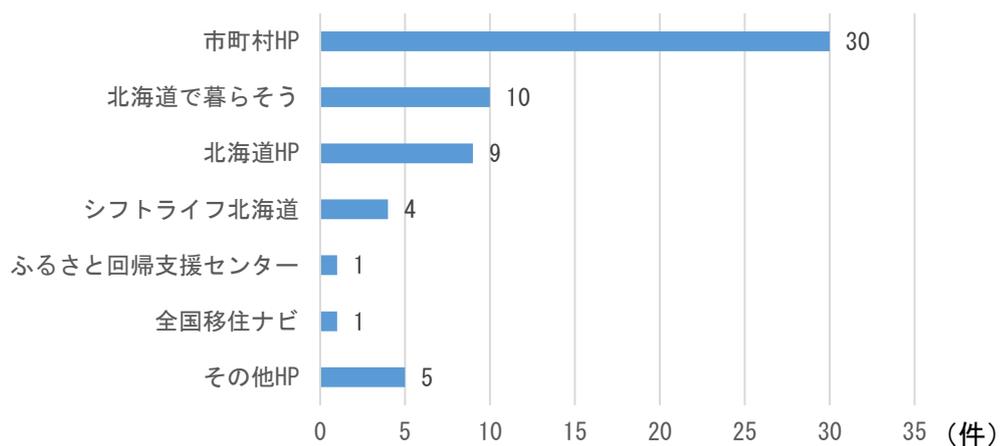
全体的にホームページの利用が多く（60件）、インターネットが重要な情報源となっている。次いで、「窓口・イベント」（46件）が多かった。



① ホームページ

「市町村HP」（30件）が最も多く利用されており、他の項目よりも特に多かった。次いで「北海道で暮らそう」（10件）、「北海道HP」（9件）が多かった。

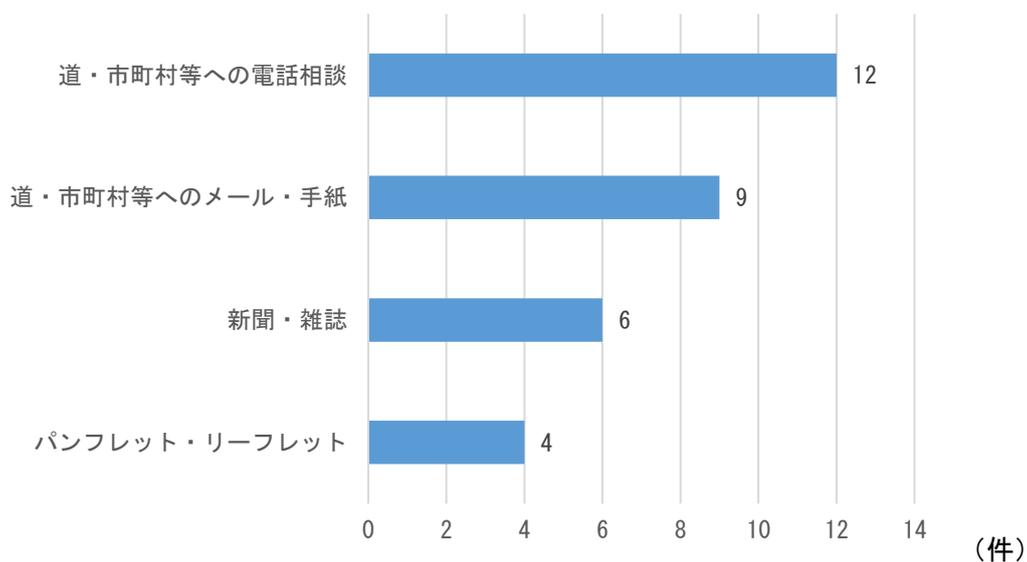
※複数回答（N=60）



※その他HP：移住者個人のHP、北海道DE農業をはじめのサイト、林業担い手センターなど

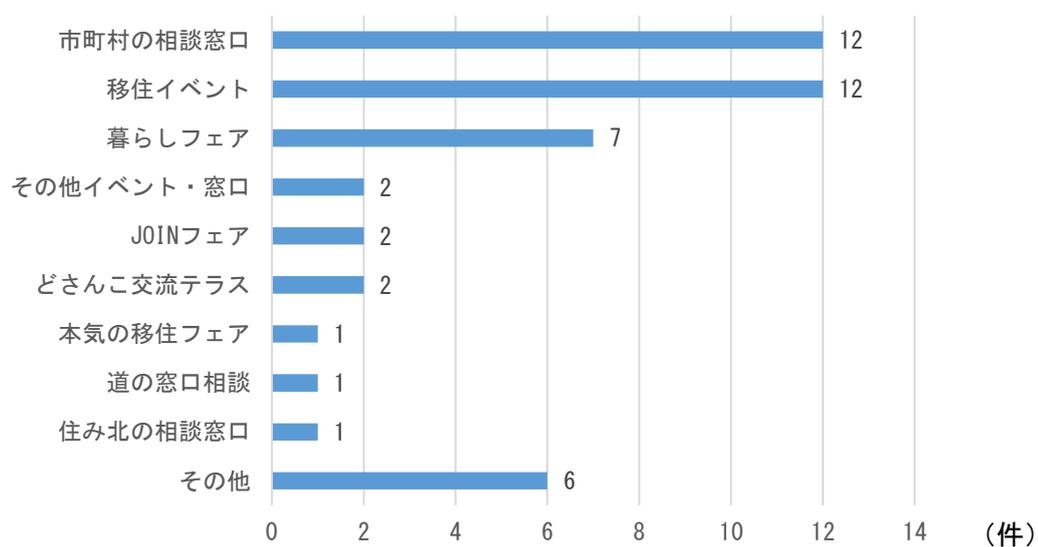
②電話・メール等

「道・市町村等への電話相談」(12件)が最も多く、次いで「道・市町村等へのメール・手紙」(9件)が多かった。※複数回答(N=31)



③窓口・イベント

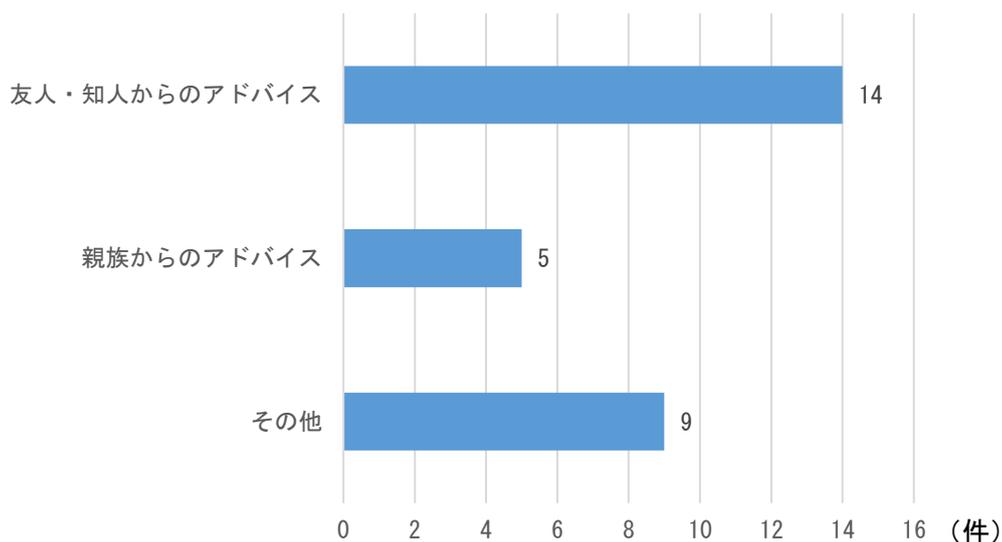
「市町村の相談窓口」、「移住イベント」(12件)が最も多く、「北海道暮らしフェア」(7件)などの移住関連イベントへの参加も多かった。※複数回答(N=46)



※その他：新・農業人フェア、北海道農業担い手センター、市町村の合同移動相談会など

④その他

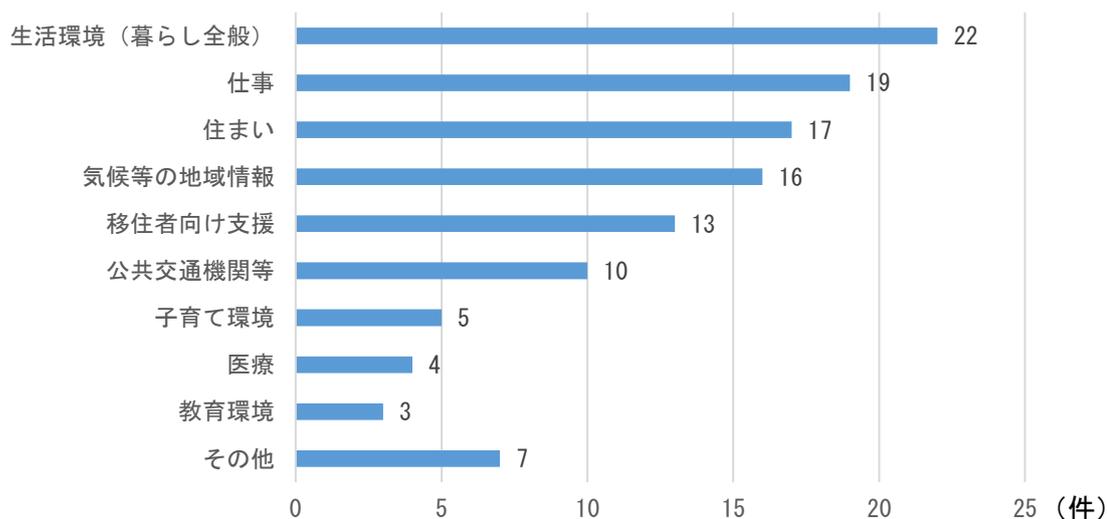
「友人・知人からのアドバイス」(14件)が最も多いが、「親族からのアドバイス」(5件)も参考となったという回答があった。※複数回答(N=28)



※その他：転職先からの情報、町民からのアドバイス、教員採用試験情報誌など

(6) 移住を検討する際に役に立った情報

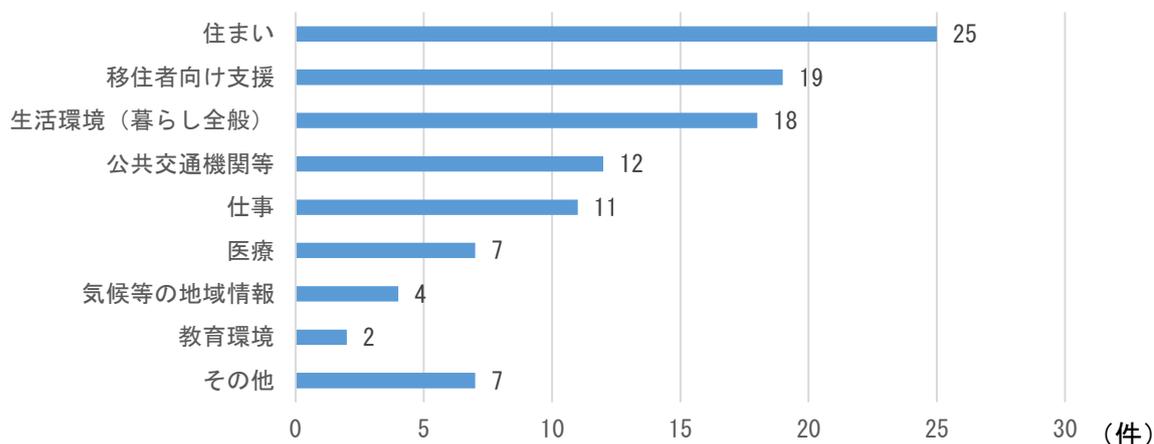
「生活環境(暮らし全般)」(22件)が最も多く、次いで「仕事」(19件)、「住まい」(17件)、「気候等の地域情報」(16件)が多く、関心が高かった。また、「移住者向け支援」(13件)、「公共交通機関等」(10件)も多かった。※複数回答(N=116)



※その他：イベント情報、親族からの情報など

(7) 移住を検討する際に不足していた情報

「住まい」(25件)が最も多く、次いで「移住者向け支援」(19件)の順となっており、「住まい」や「市町村の支援制度」について、効果的な情報発信を進めていく必要がある。 ※複数回答(N=105)



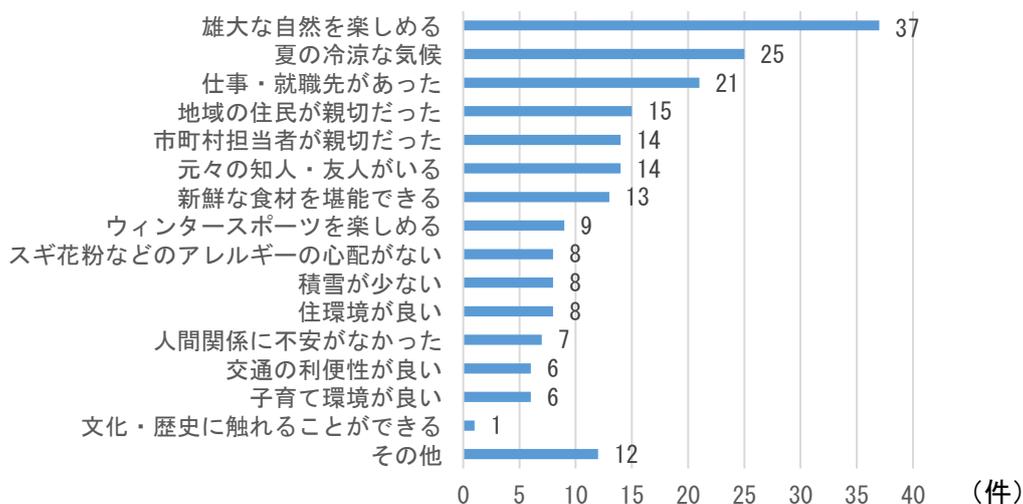
※その他：行政サービス、町民性、人間関係など

2 移住を決めた経緯

(1) 移住した理由

「雄大な自然を楽しめる」(37件)が最も多く、次いで「夏の冷涼な気候」(25件)が多く、「自然」「涼しさ」といった北海道の魅力が移住の大きな理由の一つとなっている。「仕事・就職先があった」(21件)も多く、現役世代にとって「仕事」の確保は重要な要素となっている。このほか、「地域の住民が親切」(15件)、「市町村担当者が親切」(14件)のように、地域が移住者を受け入れる意識が高かったり、「元々の知人・友人がいる」(14件)のように人間関係に不安がないことが重視されている。

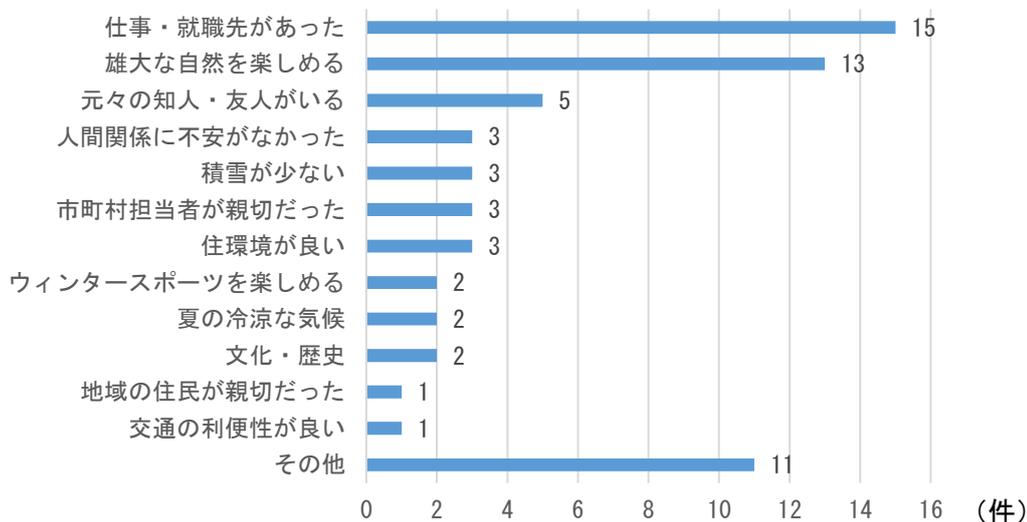
※複数回答(N=206)



※その他：憧れのイベントを開催していた、趣味に合う、空気・水が良いなど

(2) 移住した一番の決め手

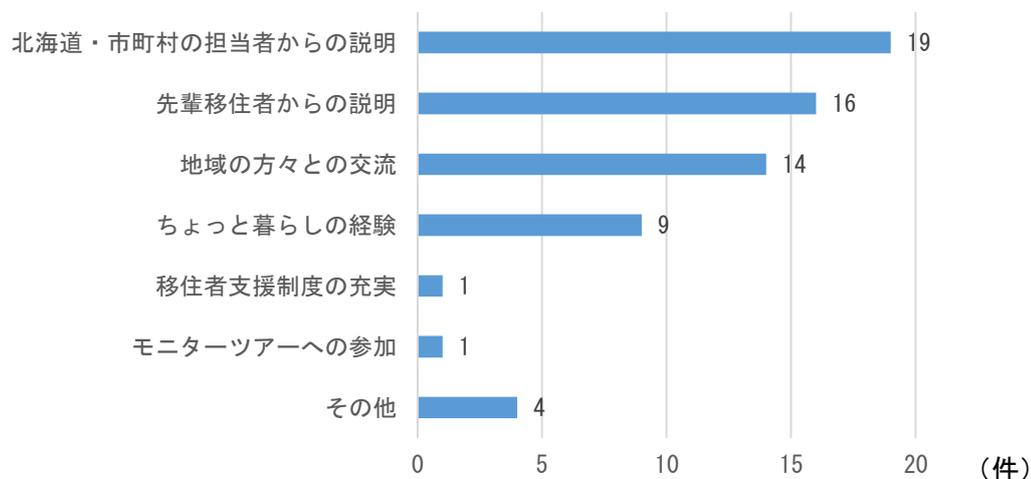
移住の一番の決め手となったものは、「しごと・就職先があった」(15件)や「雄大な自然を楽しめる」(9件)が中心である。また、「その他」では自分のイメージと合っていた、「地域の方が親切だった」などの回答があった。 ※複数回答 (N=65)



※その他：町の担当者の対応が良かった、イメージと町の雰囲気が近かったなど

(3) 移住を決める際に役に立った地域の取組や情報

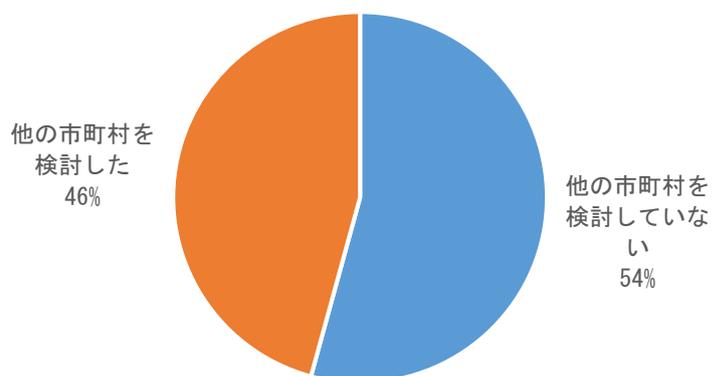
「道・市町村担当者からの説明」(19件)が最も多く、行政の相談対応が重要であることがうかがえる「先輩移住者からの説明」(16件)、「地域の方々との交流」(14件)も次いで多く、地域の方々から伝えられる情報が非常に役立っている。また、「ちょっと暮らしの経験」(9件)も役に立ったという回答があった。 ※複数回答 (N=64)



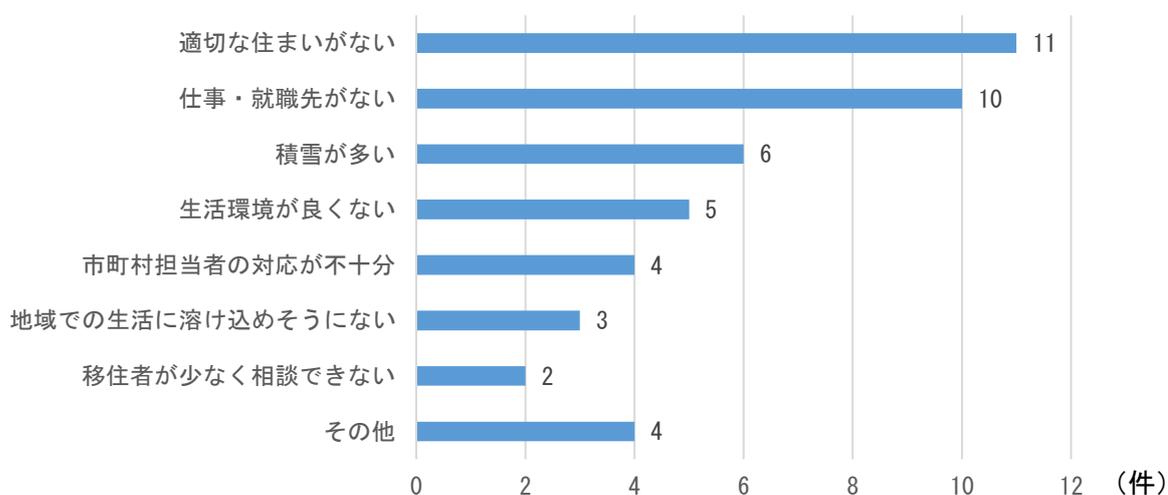
※その他：町の環境政策など

(4) 道内各市町村での移住の検討

約半数の方が道内各市町村での移住も検討したが、「適切な住まいがない」(11件)、「仕事・就職先がない」(9件)などの理由で移住を断念している。



【検討した結果、他の市町村を選ばなかった理由】※数回答 (N=48)



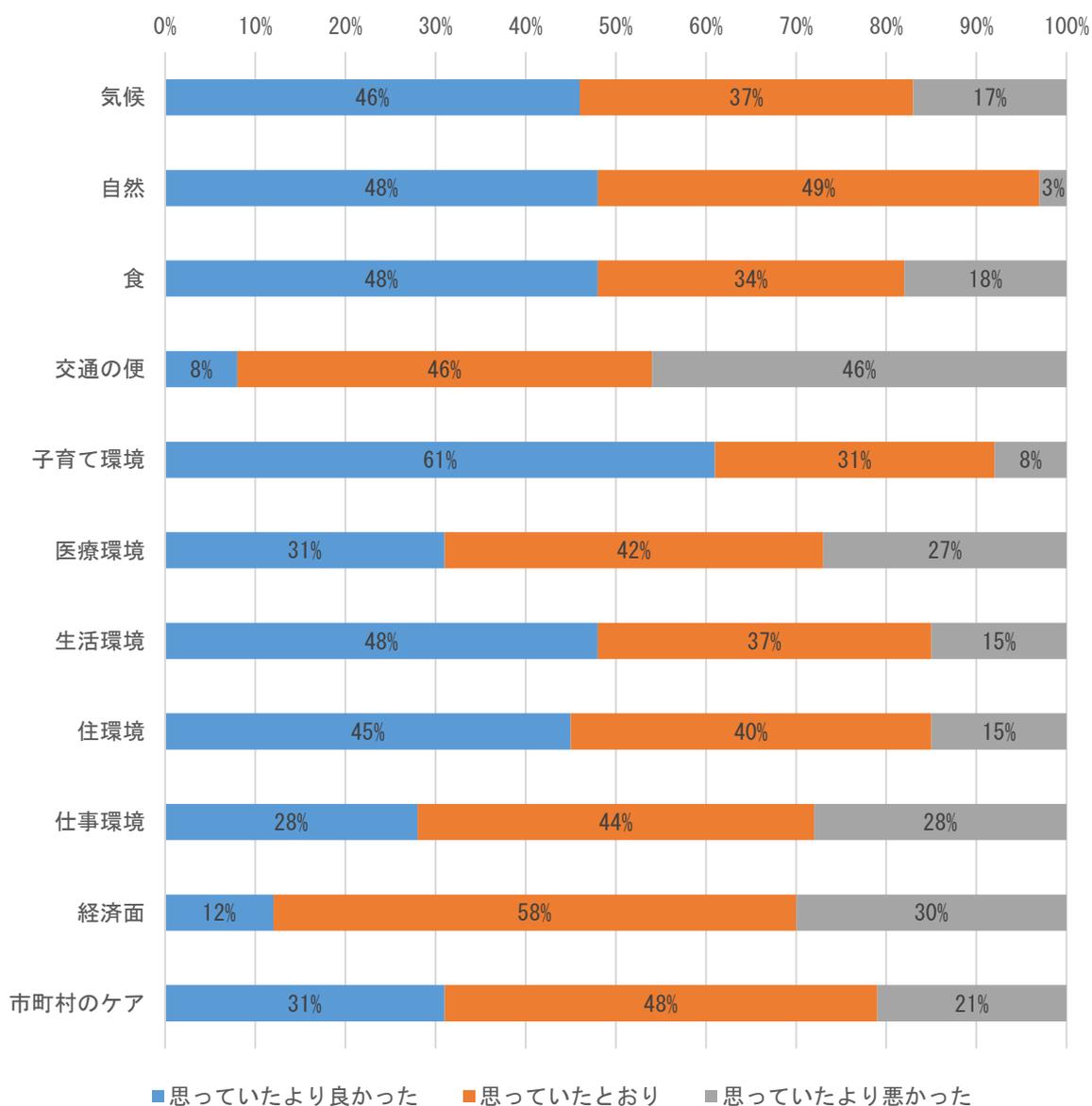
※その他：趣味に合わなかった、環境の悪さなど

3 移住前のイメージと移住後の違い

「思っていたより良かった」という回答の割合が最も大きかった項目は、「子育て環境」（61%）で、次いで「自然」、「生活環境」、「食」（ともに48%）が大きかった。「食」については、「思っていたよりも悪かった」という回答も18%あった。

「思っていたより悪かった」という回答の割合が最も大きかった項目は、「交通の便」（46%）で、次いで「経済面」（30%）が大きかった。

「医療環境」と「仕事環境」は「思っていたより良かった」「思っていたよりも悪かった」の回答が同程度（いずれも約3割）となっている。



■主な意見（思っていたよりも良かった、悪かった点について）

「良かった点」では、地域の方々との良好なコミュニケーションが取れている、地域での生活を楽しんでいる、という回答が多く「悪かった点」では、交通など生活の利便性の悪さや教育への不安、地域の方々とのコミュニケーションが難しいという回答があった。

【思っていたよりも良かった点】

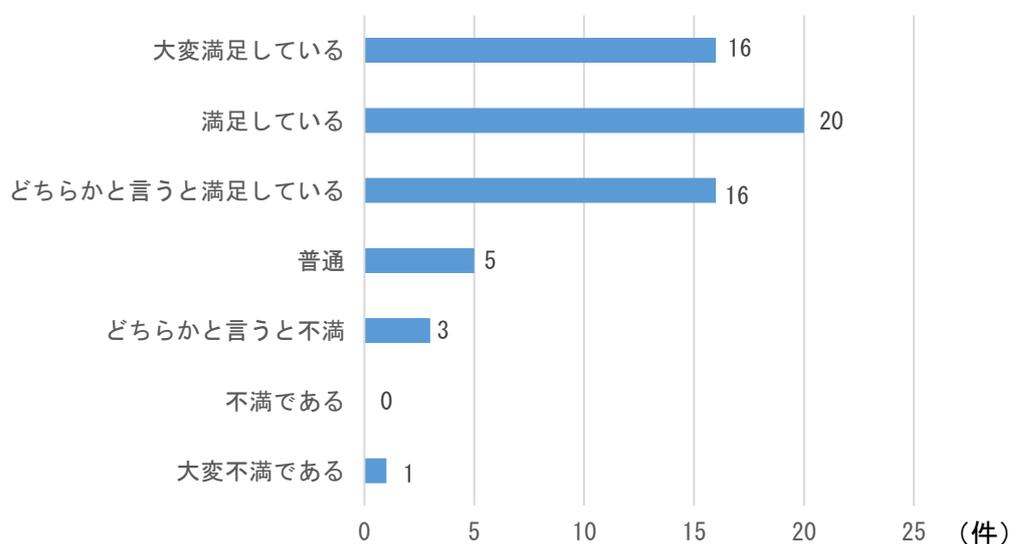
- ・年間を通してアウトドアを楽しめる。
- ・元々住んでいる人たちが抵抗なく移住者を受け入れていたこと。
- ・地域の人々との人間関係がスムーズ。
- ・生活していく中で田舎だからこその奥深い近所付き合いの良さを感じている。
- ・子どもたちが挨拶してくれる。
- ・冬期の除雪作業が充実している。
- ・近隣の人たちが親切。
- ・四季の変化が楽しめる。
- ・保育園の料金がとても安い。

【思っていたよりも悪かった点】

- ・地元の人々の保守性。
- ・教育の質のレベルが低いこと。
- ・交通の利便性（JR、バス）が悪い。
- ・移住者というだけで、勝手に何かしてくれると期待される。
- ・コミュニティが作りづらい。
- ・大阪までの飛行機の直行便が通年運航しなくなり、一旦千歳まで行かなくてはならないこと。
- ・交通マナー（スピードオーバーの車が非常に多く危険を感じるから）。
- ・冬季での体力づくりをする場がないこと。
- ・食べ物、地域の習慣等溶け込みにくいこと。
- ・交通費（ガソリン代や電車、バスの運賃）が高い。
- ・外食のバリエーションが少ない。

4 移住したことの満足度

「大変満足している」「満足している」「どちらかという満足している」(計52件)と約85%の方が満足している。※複数回答(N=61)



5 その他(自由回答)

《行政・関係機関への御意見等》

(仕事)

- ・仕事。収入源がとぼしいと感じる。年金生活者には楽だと思うが、とけ込むのは難しい。
- ・夫の仕事はネットを使った在宅ワークなので、住まいを検討する際にネット環境がどうなのか知りたいのだが、その辺りの情報がなかなか手に入らないので困っている。
- ・移住したくても仕事が無ければ二の足を踏んでしまう。住む場所(家)も大事だが、地方へ誘致しても生きていく手段(仕事)が無ければ、人は動かないと思う。どちらかが欠けてもだめ。両方あつての移住実現だと思います。

(住まい)

- ・空き家バンクの情報が多いとうれしい。単身者の移住者もあると思うので、仕事などの情報も多いと助かる。
- ・仕事場から近いところに住宅の物件が少なく、又、古すぎるところが改善されるとよいと思う。
- ・移住を行政は呼びかけているのに、住宅(まず住む家)がない。もっと住宅の整備が必要。
- ・北海道では住宅と光熱源の問題が生活充実性の決め手になると思います。除雪、排雪場所(一軒家の場合)の確保、特に家の造りで家の周りの雪の吹きだまり場は決まる。

(その他)

- ・移住支援・促進は行政以外の第三者機関がやらないと、本音の部分や欠点がわからない。良いところばかりPRされて移住すると住んでみたら違ったということが出てくる。NPOの設立や任意団体の設立をしやすくし、後押しすべきである。
- ・このような内容のアンケートをして予算を浪費している限り、北海道は良くなれないと思う。移住や観光に頼ってはならない。地域住民第一とすべきです。
- ・北海道に移住したい人はたくさんいると思うが老人以外は仕事や住宅が無いと移住できない。そちらの対策を考えた方が良いと思う。老人ばかりでなく、子供を連れての移住が必要と思う。
- ・定着支援策が必要。きっかけ作りだけではなく。
- ・移住の動機や希望、要望、条件は一人一人違ってきます。移住者を受け入れたいなら、移住希望者の細かい要望を聞き的確に答えて提示することが大切です。移住フェア、イベント、パンフレットなどに費用を費やしても移住してみたいで終わって移住のための具体的な行動に移らないです。
- ・移住支援を一生懸命推進している北海道の市町村があるのは知っています。しかし、移住支援をしていると言いながらも一度も自分の町の外へ出たこともない担当者もいます。移住者に寄り添い、もっと真剣に取り組んでもらいたい。
- ・移住経験者、移住者の体験談をまず聞くべき。もっと親身になるべき。仕事と割り切っている方には向かない。
- ・公的機関（道庁）による移住者サポートの点数化。HPを持っている、窓口がある、体験ツアーがあるなどががんばっている、前向きに移住施策を進めている市町村を道が応援してほしい。
- ・事前に話す内容について責任をもっていただきたい。
- ・受入側の体制の構築
- ・まちの今後のビジョンについて何も見えてこない。
- ・生活体験事業については今後もやるのか考えるべき。もっときちんとやって深く考えるべき。住民との壁ができる恐れがある。

《これから移住を検討される方へのアドバイス》

- ・賃金は安い、アウトドアが好きな人には工夫次第で楽しめるところがたくさんある。
- ・車の運転の際に、信号機の位置に違和感がある。交差点の向こう側に信号機があるのは、距離感が大きく狂う。
- ・車の免許は必須。(ただ、道が広いので運転しやすい。)
- ・本格的移住の場合は積極的に居住地住民とコミュニケーションを取ること。地域行事や小さいけど大切な習慣や集まりの情報が住民の方から知らせてくれるので絶対生活が楽しくなる。交流会の開催は情報収集の大事なチャンスなので積極的にお願います。

- ・退路は断たない方が良くと思う。(元の住居、人間関係)
- ・その地域によって色々な住人がいると思う。その地域と住人になれる事が移住してから楽しく暮らせるかが決まってくると思う。市町村の条件などで選んだ先は個人的な問題になってくるので、人間関係が密な田舎では都会よりお付き合いに時間もお金もかかりませす。人付き合いが苦手な人などは都会で暮らしていた方が良くと思う。
- ・コンクリート社会に嫌気がさした人々は移住してみた方が良く。
- ・文化、習慣、考え方が異なる場所でそれでもやはり慣れるのに3年かかります。苦しい時期もありますが住めば都です。
- ・特に東京などの都会から来られる方へ。車の走り方が違って面食らいます。交差点手前の速度が東京の10倍以上に感じます。前向き駐車もカルチャーショック!! 異文化を楽しもうと思っていますが、相当覚悟がいります。でも、それを上回るすばらしさはたぶん日本一です。是非、来てください!!
- ・あまり終の棲家と思わないで、思い切って旅をする感覚で飛び込んだ方が良くと思います。選びすぎるより、まずどこかへ移住し、そのうち他が良ければ他へ移るというくらい気軽な考えで。これは誘う側も同じ事が言えます。
- ・理想と現実をはっきり見極めてから決めること。行政など…本当に移住をすすめたいのか本気具合が伝わりませす。後のフォローも当ても何も無いです。人が良かったのが救いです。
- ・移住の目的を持って不安な点は質問し、納得してから移住した方が良くと思います。
- ・移住する家族で、移住の目的などをよく話し合いをすること。
- ・私がよく言われた先輩方の言葉が「来ないと何もはじまらない」です。実際、私も来てみて前に進み出しました。
- ・移住地を決められる際は、ご自身の希望をできるだけリストアップしてみるといいと思います。幾つかの候補地を◎(5点)○(3点)△(1点)×(0点)などと採点して、総合点の一番高い所を選ばれば、失敗は少ないかもしれませす。そして絞られた候補地は雪の時期にも視察に行かれたらよいいと思います。
- ・別居などの人でも住める住宅があれば良いいのかなと思います。
- ・都市部と田舎との意識の差を少しでもお互いが理解すること。
- ・短期間でも冬場の生活を体験することをお勧めします。
- ・趣味を持つと良いいと思います。